令和８年度　シンテッポウユリ栽培暦

ＪＡ福岡京築・京築普及指導センター

月	4			5			6			7			8		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
８月出荷			定植（本葉３枚～）	かん水管理 / 乾燥に注意	病害虫防除 / 液肥管理 / アザミウマに注意		抽苔 / ネット上げ（本葉８枚～） / かん水管理	花芽分化（草丈３０cm程度）		病害虫防除 / 葉枯病に注意	発蕾 / 液肥管理		収穫		

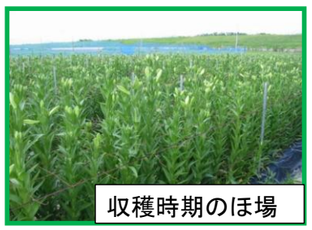
主な病害虫の発生時期


定植直後の苗


葉枯病の症状


抽苔した苗


発蕾時期のほ場


収穫時期のほ場

１　基肥・畝立

・連作を嫌うため、輪作を行う。

・近年、豪雨傾向のため、排水性の良いほ場を選定する。

・土づくり
→年内に堆肥を200kg／a投入した後、ほ場の荒起こしを数回行う。

※土壌pHが低い場合は、石灰質資材を８～10kg／a施用

・マルチ張り、フラワーネット設置
→黒マルチを張った後、フラワーネット（15cm角6目）を設置する。

基肥の施用例（1aあたり）

肥料名	施肥量 (kg/a)	窒素:リン酸:カリ 各成分量(kg/a)		
セラマイティR1号 (15:15:15)	14	2.1	2.1	2.1
燐硝安加里S604 (16:10:14)	6	1.0	0.6	0.8
合　計		3.1	2.7	2.9

２　定植

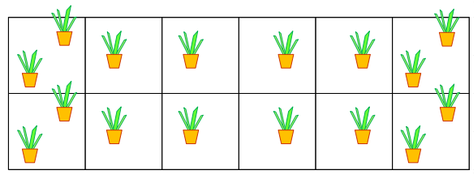
・定植前、セル成型トレイに液肥をかん注する
→定植直前の苗に液肥（OK-F-1 1000倍）をジョウロで与え、初期生育を促す。

・植え遅れに注意
→本葉3枚展葉時が定植適期。
葉齢が進むと早期発蕾が発生しやすくなる。

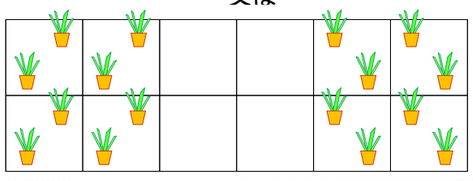
・深植え、マルチ焼けに注意
→植え付けはセルトレイの表面用土が隠れる程度とする。

・定植後の乾燥に注意
→定植直後は十分かん水し、根の活着を促す。
定植後1か月程度は、乾燥しないよう管理する。

【植付方法】 15cm角６目ネットを使用



又は



３　液肥管理

・葉色を見ながら液肥（OK-F-1）を　500～1000倍で散布する。
→抽苔時期までの生育が草丈、輪数に大きく影響する。
→但し、肥料分が多すぎると多輪が発生しやすくなる

・うらごけ（先端が細くなること）の防止のため、発蕾時期も葉色に注意して液肥を散布する。

葉色早見表

SPAD値	葉色	定植後～（４月中旬～５月中旬）	抽苔時期（５月下旬～６月上旬）
55		液肥散布不要	液肥散布不要
45		液肥散布不要	800～1000倍
35		800倍希釈	800倍希釈
25		500倍希釈	500倍希釈

４　病害虫防除

発生時期に注意して予防に努める。（※裏面の防除暦を参照）

害虫発生カレンダー

4月			5月			6月			7月			8月		
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
						梅雨時期 要注意	葉枯れ病							
	アザミウマ類は特に警戒					アザミウマ類、アブラムシ類								
			発見次第、捕殺			ユリクビナガハムシ								

５　収穫

切り前は、最も大きい蕾の長さが９～10cm程度になった時。
収穫は、早朝あるいは夕方の涼しい時間帯に行う。